



和歌山市の

住めるは何時の日?

震災後遅々として進まぬ住宅の復興に、せまいながらも楽しい我が家の水入らずの幽玄に耽れるのは何時の日であろう。
以下縣統計課長中村三郎氏の寄せられたものを記述する。

の日？
年十一ヶ月も先
世帯數は四六、四〇〇
であるから、一世帯一
住戸としての所要數對
比の復興率は八八%と
いうことが出来る。
住宅不足數 従つて
現在人口における住宅
の不足數は五、四二一
戸と前述計算に含まわ
る假小屋非住家一、七
一五戸を加えて住宅不
足は七、一三六戸であ
る。昨年八月一日現在
の常住人口よりみると
足數七、七五三戸と幾
比して人口の自然増加
と都市轉入抑制解除に
よる和歌山市人口の増
加趨勢よりみて、住宅
難はまだ深刻な状況が
つゝいている。(なお終
戦後建築一三、六六二
戸人口増加三八、五八
〇人であるから現在ま
で復興速度と人口増
加線がこの状況で進む
七、七五三戸をも満た
されるのは今後四年十
一ヶ月を要することと
なる。
結論 住宅復興の進
捲が遅れているのは全
國戰災都市共通の事情
に基くものであるが和
歌山市の場合終戦當時
の特殊事情がある即ち
第一復興促進の基盤た
る區劃整理が書類、地
圖の焼失による資料作
成に約一年を要したこ
と第二城北、雄湊、鼠
島を合して面積二萬坪
一、〇〇〇戸が進駐軍

の命により立退きをうけた爲市民が建築を憂えたことなどが擧げられてゐる。直接の陸路となつてゐるものには資材の不足もさることある。三月末までの復興の足取りは人口増加指數において一二六で五〇で前者によく對處しつゝある。しかしながら住宅復興計畫は火災による減耗も見込まねばならないのと人口膨脹速度が著しく早い問題の特質を把握しなくてはならない。我が國で最も大規模な且信頼のおける調査は國勢調査であるがこの國勢調査によつて職業統計を見ても實に見えない失業者が存在することが想像される。第一に「完全失業者」は六十七萬人に過ぎぬが、「不完全失業者」は約四〇〇萬人であった。この「不完全失業者」の實態が問題である。第二に、全人口の約四〇%を占める「農業人口」の性格を明らかにせねばならぬ。日本の農業は利潤を目的とする資本的經營ではなく、家族の生計を目的とする家族的經營である。従つて利潤どころだけなく賃金部分へもはるかに低い収益で維持されてゐる經營が多い。農業のみでは

原子力時代が現出し、科學の恩恵至らざるなき今日、未だに電灯もなく、貨物の運搬に人力をもつてする等凡そ近代文明に忘れられた熊野のチベット、三川村にも漸く文化のじよう光がめぐつて來た。即ち昭和十八年着工以來、戰爭と硬岩を克服し、約九六〇萬圓の經費によつて、延長六四年、米、林道としては全國一といわれる深谷隧道が完成し、自動車の通行が可能となつたのである。

廣袤二萬五千町歩、千古不斧といふ大塔山の無盡藤の山林資源も、

生計が維持できず、種々の兼業によつて漸く生計が保たれつつあるものが多いで、農業主といふのは、三男は土地が不足だから分家はできぬ。從つて他の職業に進みたい。就職の機會あらばと待つてゐる彼等は潜在的な過剰人口である。

第三に、從業主の地位別による職業人口を見ると、「個人業主及び家庭從業者」が六〇%、「雇用主」が三六%で前者は、大な内勞働、小賣商業の多くのものは就業はとぎれ勝でござり、又建設業二九%も問題である。この農業は、六九%、水産業六〇%とござり、又建設業二九%も問題である。この農業は、大な内勞働、小賣商業の多くのものは就業はとぎれ勝でござり、又建設業二九%も問題である。この農業は、

始めて
手を見る村
開通式現地報告
この陸道によつて、運搬され、その價值は一躍倍加されるに至つた。かつて赴任の途中行手の困難さに辭任を決意したといふ辭職峠の由來も一場の語り草となるであろう。

四月十八日村民の涙ぐましい迄の熱意と山林所有者の協力によつて完成したこの深谷墜道の落成式が盛大に舉行された。知事を始め關係者多數を招じ、村はこの日一日祝賀を休養日として、児童の旗行列の外數々の催し物が行なわれたのである。遠くの部落より始めて村に迎える自動車を而も生れて始めて自動車に過ぎない場合も多い、これらは質的な失業人口であり、また就業者と職を求める失業者が分化されないところに困難性がある。

かかるコロイド狀の過剰人口の上に、若干の本來的失業者がいるのであるが、しかも統計の上には實際より一層少く現れるものである。その理由の第一は、本來の失業者の一部は「無業者」の名で現れるからである。失業の解決は社

といふ文明の利器を見んと押寄せた群衆が手に手を振つて喜び、吾々の車を迎えて吳れど純朴な姿を見て記者は思わずぐつと熱いものが胸にこみ上げてくるが出来なかつた。参列の各來賓の胸中果して如何なるもののが出来たことであるうが出來たことを致しました。

どもの日」
童の人権尊重の日
皇及び姪産婦の健康の
に感謝を捧げると共に
量育成の責任を自覺さ
る日
重文化の日
元貧困兒精神薄弱兒等
保護兒童を護る日
皇福祉事業促進の日